

# 小林市教育研究センター

I	研究主題	.....	2-2-1
II	主題設定の理由	.....	2-2-1
III	研究目標	.....	2-2-2
IV	研究仮説	.....	2-2-2
V	研究構想	.....	2-2-2
VI	年次計画	.....	2-2-3
VII	研究組織	.....	2-2-3
VIII	研究内容	.....	2-2-3
1	キャリア教育推進班の取組	.....	2-2-3
(1)	小林市キャリア教育全体計画の作成	.....	2-2-3
(2)	実態調査及び分析	.....	2-2-5
(3)	キャリア教育推進班の研究授業の実施	.....	2-2-6
2	授業実践研究班の取組	.....	2-2-7
(1)	実態調査及び分析	.....	2-2-7
(2)	「こすもす科」総則の見直し	.....	2-2-8
(3)	「こすもす科」の授業改善	.....	2-2-8
(4)	授業実践研究班の研究授業の実施	.....	2-2-9
IX	成果と課題	.....	2-2-10
1	成果	.....	2-2-10
2	課題	.....	2-2-10
○	研究同人	.....	2-2-10

## I 研究主題

「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める小林教育の実現  
～自ら課題に気付き、協働で解決する力を高めるキャリア教育の推進～

## II 主題設定の理由

これから私たちが生きていく社会では、生活様式や就労形態の変化が急速に進むと考えられる。このような変化の激しい社会に対応していくために、学校教育においては、知識の習得だけでなく、学んだことを活用し、ものごとを主体的に判断する力とともに、他者との対話等を通して協働しながら、自ら発見した課題や問題を解決し、新しいものを創り上げていく資質・能力の育成が求められている。

平成29年3月に告示された新学習指導要領においては、社会に開かれた教育課程が重要視され、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進がポイントになっている。また、子どもたちに「生きる力」を育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義が全ての教科等に示されるとともに、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要にしつつ、各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実を図ることが謳われている。

このような中、本県においては、第二次宮崎県教育振興基本計画の改訂において、国内外に開かれた「みやざき新時代」を築く人財づくりを推進していくために、自立した社会人・職業人を育む教育の推進を施策の目標として示された。

本市においては、市の将来像として「みんなでてなむ 笑顔あふれる じょじょんよかこ小林市」を目指しており、平成29年3月には、協働のまちづくりの推進等を基本理念とした「第2次小林市総合計画」を策定した。本市教育委員会においても、この総合計画の個別計画である「小林市教育基本方針」を一部改訂し、『学びたい』『学ばせたい』気持ちを高める小林教育」を教育目標とした取組の具現化に向けて取り組んでいるところである。この「小林市教育基本方針」では、「キャリア教育」の充実を施策の一つとして位置付けており、小中一貫並びに学校と家庭、地域社会、産業界の連携及び協働による「キャリア教育」を展開し、児童生徒に社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度の育成に努めているところである。

一方、本市の児童生徒の実態として、将来の職業に不安を感じていたり、学校での学習に意義が見いだせなかったりする状況がみられる。また、産業界の状況としては、勤労観・職業観の希薄化や社会人としての基礎的・基本的な資質の低下による早期離職や、非正規雇用率が高いことなどが課題として挙げられる。

そこで、本研究センターでは、本市の特色ある教育体制である「小中一貫教育」の取組を土台とした、9年間を見据えた系統的なキャリア教育の在り方を明らかにする。具体的には、「こすもす科」における主体的・対話的で深い学びを基盤とした授業の在り方や、「こすもす科」と特別活動とのキャリア教育に係る相互補完的な授業の在り方、学校と小林市キャリア教育支援センターとの連携の在り方について研究に取り組むこととした。

このように、本研究センターにおいて上記のような実践的な研究を行うことで、自ら課題に気付き、協働で解決する力をもった児童生徒の育成ができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

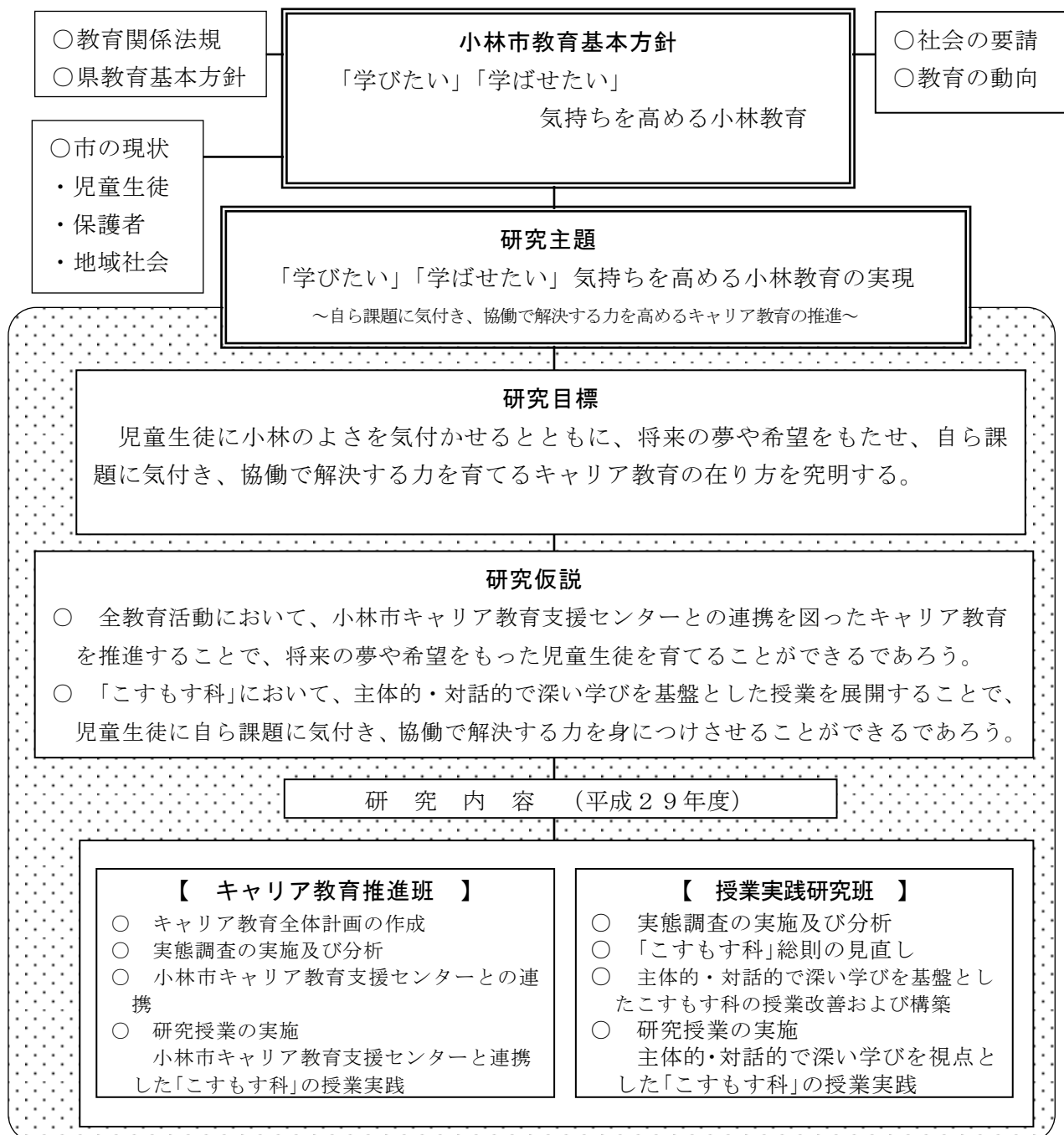
### Ⅲ 研究目標

児童生徒に小林のよさを気付かせるとともに、将来の夢や希望をもたせ、自ら課題に気づき、協働で解決する力を育てるキャリア教育の在り方を究明する。

### Ⅳ 研究仮説

- 全教育活動において、小林市キャリア教育支援センターとの連携を図ったキャリア教育を推進することで、将来の夢や希望をもった児童生徒を育てることができるであろう。
- 「こすもす科」において、主体的・対話的で深い学びを基盤とした授業を展開することで、児童生徒に自ら課題に気づき、協働で解決する力を身に付けさせることができるであろう。

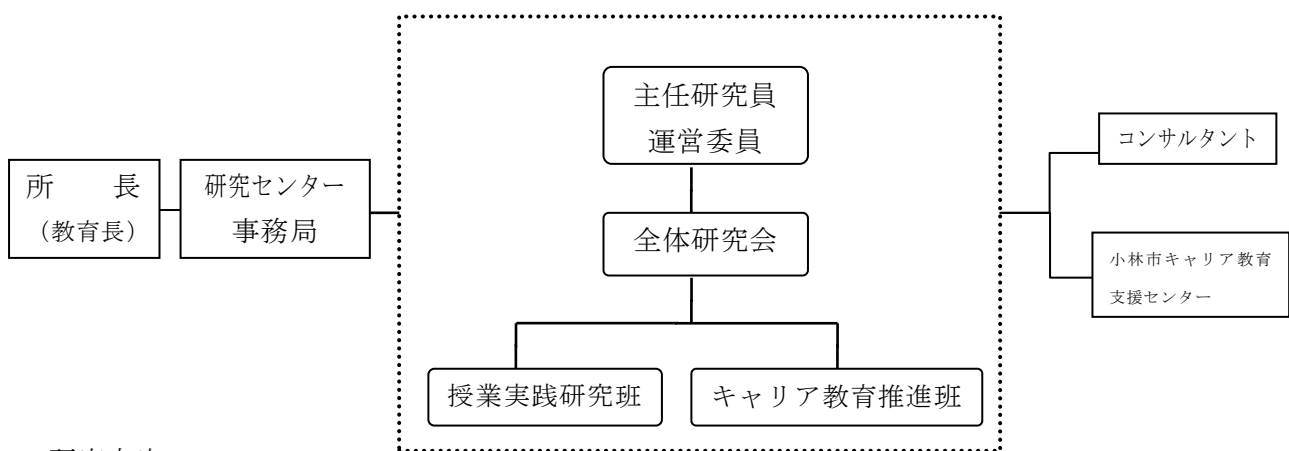
### Ⅴ 研究構想



## VI 年次計画

平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育に関する実態調査の実施及び分析</li> <li>○市キャリア教育全体計画の作成</li> <li>○小林市キャリア教育支援センターとの連携</li> <li>○「こすもす科」総則の見直し</li> <li>○主体的・対話的で深い学びを基盤とした「こすもす科」の授業改善および授業構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学校におけるキャリア教育全体計画の作成</li> <li>○「こすもす科」の授業改善と授業構築及び学級活動との関連性の整理</li> <li>○小林市キャリア教育支援センターとの連携</li> <li>○キャリア教育に関わる「こすもす科」テキスト改訂に向けた方向性の検討及び準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こすもす科」と連動した学級活動の授業構築</li> <li>○キャリア教育に関わる「こすもす科」テキストの改訂作業（作業部会別途発足）</li> <li>○地域の人材や産業と連携した小林の未来を考えるキャリア教育手引きの作成</li> </ul>

## VII 研究組織



## VIII 研究内容

### 1 キャリア教育推進班の取組

#### (1) 小林市のキャリア教育全体計画について

今回の研究では、9か年を見据えた系統的なキャリア教育の在り方を究明したいと考えている。そこでまずは、「こすもす科」で「身に付けさせる能力（8能力）」を「基礎的・汎用的能力」に当てはめ、どの指導項目をどの期間学習するかを整理するために、図式化し、小1から中3までの9か年における「こすもす科」の系統性が一目で分かるようにした。【図1】

本市において、キャリア教育は、「こすもす科」を基盤とし、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、各教科等、全教育活動で推進していきたいと考えている。

そこで、特に「こすもす科」の単元と関連の深い道徳、特別活動（学級活動）について、それぞれの関連する指導内容が分かるように価値や単元名をまとめた系統表を作成した。【図2】整理する中で「基礎的・汎用的能力」の4つの能力のそれぞれに、発達の段階に応じて「キャリア教育で目指す児童生徒像」を明らかにする必要性が出てきた。そこで、【表1】のように、本年度はキャリアプランニング能力と人間関係形成・社会形成能力の2つの能力について「キャリア教育で目指す児童生徒像」を以下の通り作成した。

このように関連指導内容を整理したことで9か年を見通してみると、教科や領域において、重複する内容や関連性の高い内容が多くあることが明らかになった。

今後は、これらの関連性を踏まえ、「こすもす科」の改訂に生かすとともに、「こすもす科」と特別活動（学級活動）とのキャリア教育に係る相互補完的な授業の在り方について研究を進めていきたい。

キャリア教育全体計画 **こすもす科で身に付けさせる8能力**

[こすもす科で身に付けさせる8能力の系統表(指導項目)]



【図1：キャリア教育全体計画の一部】

小1・小2	小3・小4	小5・小6・中1	中2・中3
<p>1年 あいさつ・へんじをしよう 2年 時間を守ろう</p> <p>1年 もっとなかよくなろう</p> <p>1年 みんなでやってみようⅠ 2年 みんなでやってみようⅡ</p> <p>2年 きまりをまもって</p> <p>1年 「規則の尊重」 どうしてかな そろっているけど おどろきやま</p> <p>2年 1りん車 きまりのない学校 おじさんからの手紙</p> <p>1年 「公共、公正、社会正義」 もりのおれぼんと かずやくんのなみだ</p> <p>2年 三びきはともだち ドッジボール</p> <p>1年 「望ましい人間関係の育成」 わたしには なまえがあるよ きるとかにーみんなでなかよく おんげい、ありがたう</p> <p>2年 「望ましい人間関係の育成」 いやな気もち 友だちのよいところを見つけよう ぼくだけ どうしてけるの</p>	<p>3年 ていねいな言葉 4年 みんなで使う場所は</p> <p>3年 あたかい言葉がけをしよう 3年 話し合い方を学ぼうⅠ</p> <p>3年 みんなでやってみようⅢ 4年 みんなでやってみようⅣ</p> <p>4年 安全な行動Ⅰ</p> <p>3年 「規則の尊重」 ちゃんと使えたのに みんなのおき水 ジュースのおきかん</p> <p>4年 雨のバスでいりゅう所で</p> <p>3年 「公共、公正、社会正義」 同じなかだから ぼくのボールだ</p> <p>4年 決めつけないで いじりといじめ</p> <p>3年 「望ましい人間関係の育成」 友だちを大切に 友達の名前 だれとも仲良く</p> <p>4年 「望ましい人間関係の育成」 明るい学級にしよう (問) まちがいをし直そう (問) 男女仲良く (問)</p>	<p>5年 時と場合に応じたあいさつ・返事 6年 公共のマナーⅠ 中1 公共のマナーⅡ</p> <p>6年 自分の気持ちや考えを伝え合おう</p> <p>5年 話し合いの仕方を身につけようⅡ 中1 話し合いの仕方を身につけようⅢ</p> <p>6年 みんなでやってみようⅤ 6年 みんなでやってみようⅥ 中1 みんなでやってみようⅦ</p> <p>6年 安全な行動Ⅱ</p> <p>5年 「規則の尊重」 通学路 住みよいマンション おくらんドリュウツサンク</p> <p>6年 クラスのきまり 税金ってだれのため 門番のマスコ</p> <p>5年 「公共、公正、社会正義」 名前のない手紙 これって不公平?</p> <p>6年 杉原千鶴一太郎 わたしの</p> <p>中1 友だち 中1 公徳心・社会正義</p> <p>5年 「望ましい人間関係の育成」 楽しい道徳にしよう 集団の一員として 勇気ある行動</p> <p>6年 「望ましい人間関係の育成」 言葉遣い (問) 励ましあう心(問) 異性の友達 (性)</p>	<p>中2 相手を尊重して伝えよう</p> <p>中2 みんなでやってみようⅧ 中3 みんなでやってみようⅨ 中3 携帯電話とインターネット</p> <p>中2 学級のルールや役割</p> <p>中3 思い出に残る行事にしよう</p>

○ は「こすもす科」  
□ は「道徳」  
▭ は「学活」を示す。

【図2：こすもす科と道徳や学級活動との関連を示した系統表】

	小1年・2年	小3年・4年	小5年・6年	中1年～3年
キャリアプランニング能力	身近な人々の様子が分かり、興味・関心をもつとともに、学校生活を送りながら、自分の好きなものや大切なものをもつことのできる児童	いろいろな職業や生き方があることを知り、係や当番活動等に積極的に関わりながら、自分のよさを見つけることのできる児童	様々な職業や上級学校のことを知り、自分のよさや課題と照らし合わせながら、将来についての計画を立てることができる児童	「働くこと」の意義を理解し、自分探しのための様々な情報を取捨選択・活用しながら、主体的に判断してキャリア形成をすることができる生徒
人間関係形成・社会形成能力	基本的なあいさつや返事をする事ができるとともに、みんなの前で自分の考えを言うことのできる児童	友達の気持ちや考えを理解しようとし、自分の意見や気持ちを分かりやすく話すことのできる児童	異年齢集団の活動に積極的に参加し、相手の立場に立って考えたことを自分の言葉で適切に伝えることができる児童	リーダーとフォロワー等の人間関係の大切さを理解し、新しい環境や人間関係を考慮しながら、自己の思いや意見を表現することができる生徒

【表1：キャリア教育で目指す児童生徒像(キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力)】

(2) 実態調査及び分析

キャリア教育に関わる資質・能力で落ち込んでいるところを把握し、本研究の方向性を見出すために、小林市内の小中学校でアンケート調査を実施した。アンケートの結果とその考察は以下のとおりである。

(対象者：教職員、小学校4年生以上の児童生徒、全保護者)

(数値は%)

能力	回答者	4	3	2	1	能力	回答者	4	3	2	1
人間関係形成・ 社会形成能力	小職員	50	47	3	0	人間関係形成・ 社会形成能力	小児童	37	47	13	3
	中職員	47	49	4	0		中学生	43	48	8	1
自己理解・ 自己管理能力	小職員	34	53	13	0		小保護	23	58	18	1
	中職員	36	54	10	0		中保護	26	58	15	1
課題対応能力	小職員	40	50	10	0	自己理解・ 自己管理能力	小児童	38	40	17	5
	中職員	39	51	10	0		中学生	29	48	20	3
キャリアプラン ニング能力	小職員	21	53	24	2		小保護	15	48	32	5
	中職員	30	57	13	0		中保護	19	51	27	3
[教職員の回答] 4=いつも指導している } 指導している 3=ときどき指導している } 2=あまり指導していない } 指導していない 1=ほとんど指導していない }						課題対応能力	小児童	33	41	21	5
							中学生	31	49	17	3
							小保護	19	44	31	6
							中保護	19	52	26	3
[児童・生徒・保護者の回答] 4=いつもできている } できている 3=ときどきできている } 2=あまりできていない } できていない 1=ほとんどできていない }						キャリアプラン ニング能力	小児童	38	36	20	6
							中学生	34	43	19	4
							小保護	10	31	42	17
							中保護	17	46	31	6

【表2 キャリア教育に関する意識調査】

【考察】

児童生徒・保護者の結果から総合的に見ると、キャリアプランニング能力が「できていない」と答える割合が高く、教職員も指導していないことが分かった。【表2】また、キャリアプランニング能力に関する項目については、どの回答者においても、中学校が「できている」と考える割合がわずかであるが、小学校よりも高い傾向が見られる。また、教職員においても「指導している」と考える割合が、中学校が小学校より高い傾向が見られる。これは中学校が、より将来や社会に出た場合のことを考えて過ごしたり、進路先・就職先を見据えた授業を行ったりしていることが影響していると考えられる。

以上のことから、学ぶ・働くことの意義理解や、将来設計及びそのための行動改善等のキャリアプランニング能力を中心に、基礎的・汎用的能力を育成していくことが必要であるということが考えられる。

指導の手立てとしては、小林市キャリア教育支援センターと連携して、児童が将来なりたい職業の方々をゲストティーチャーとして招聘し、より多様な生き方や考え方に触れさせ、自分の将来を設計する意識を高めさせたい。同時に、そうすることが主体的に学ぶ手立てとなり、多様な価値観に触れることにもつながり、主体的・対話的で深い学びにもつながるであろうと考えた。そこで、これらを検証するために、研究授業を実施した。

### (3) キャリア教育推進班の研究授業の実施

これまでの研究内容を検証するため、以下の仮説やポイントを設定して授業を行った。

【研究授業（小学校）】：第6学年「こすもす科」単元名「ライフ・夢プラン」

研究 仮説	小林市キャリア教育支援センターとの連携を図りながら、地域や地域外で働くゲストティーチャーを招聘することで、主体的・対話的で深い学びが可能となり児童は将来に夢や希望をもち、夢の実現のための意識を高めることができるであろう。	
段階	学習内容	授業のポイント
導入	1 本時の学習について話し合う。	
展開	2 めあてに対する自分の考えを書く。	○ 事前に自分の考えをまとめさせておいて、再度、本時で確認をし、ワークシートに書かせた。② ○ 小林市キャリア教育支援センターと連携してホテルマックスの方を招聘した。その他のゲストティーチャーは地域人材を活用した。① ○ 進行を自分たちで行い、ゲストティーチャーと対話形式で話し合いを進めた。そのことにより、主体的・対話的な学びができるよう工夫した。②
	3 ゲストティーチャーの話を聞く。	
	4 疑問に思ったことやさらに聞いてみたいことについて話し合う。	
	5 自分の夢実現に必要なことを考え、話し合う。	
	6 話し合ったことをもとに、学習のまとめをする。	○ 5の話合いにより見直した考えを、さらに、小集団で話し合い、児童自身の考えを深めた。②
終末	7 学習のまとめを行う。	

#### 【成果】

- 授業のポイント①について
  - ・ 小林市キャリア教育支援センターと連携することにより市内外の様々な職種や企業とのつながりが可能となり、授業での活用が広がった。
  - ・ 児童にアンケートをとり、児童の将来希望する職業の実態に合わせたゲストティーチャーを複数名招聘したことにより、主体的に学ばせることができた。
- 授業のポイント②について
  - ・ 児童の思考の流れを主眼とした授業を構築したことで主体的・対話的で深い学びが実現した。



【写真1：ゲストティーチャーの活用】

#### 【課題】

- 授業のポイント①について
  - ・ 児童のアンケートから5つの企業を選んだが、打合せ等での負担が大きいことが分かった。今後は小林市キャリア教育支援センターやこぼやしスクールサポートボランティアセンター（KSSVC）の活用の在り方について整理する必要があると考える。
  - ・ 今回は「こすもす科」の話合いや体験を行う学習段階のうち、「ステップ」段階で人材を活用したが、他の段階での活用を検討する必要がある。
- 授業のポイント②について
  - ・ 個人思考の時間を確保したり、ゲストティーチャーとの交流の時間を増やしたりするために2時間扱いで授業を行ってもよかったのではないかと考える。
  - ・ グループの人数が少なかったため、話し合いの内容は深まったが、グループの数が多かったため、授業者が全ての話し合いの内容を把握することが難しかった。



## 2 授業実践研究班の取組

### (1) 実態調査及び分析

「こすもす科」を基盤とするキャリア教育の授業改善を目的として、各学校の教職員を対象とした意識・実態調査を実施した。調査内容は、「こすもす科」で身に付けさせる能力についてである。アンケートの結果とその考察は以下のとおりである。(数値は%)

	小学6年				中学1年				中学2年				中学3年			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
自己育成能力	0	62	38	0	4	77	19	0	10	65	20	5	5	75	20	0
責任遂行能力	0	77	23	0	12	76	12	0	10	70	15	5	5	65	30	0
コミュニケーション能力	0	69	31	0	0	38	58	4	5	55	35	5	0	45	55	0
集団参画能力	0	31	69	0	4	35	53	8	5	35	55	5	0	45	55	0
地域貢献能力	0	38	62	0	8	31	46	15	0	45	50	5	5	45	50	0
将来設計能力	0	46	54	0	12	42	46	0	5	50	40	5	10	55	35	0

4 = 身に付いている。	3 = どちらかと言えば身に付いている。
2 = どちらとも言えば身に付いていない。	1 = 身に付いていない。

【表3：各能力が児童・生徒に「身に付いている」と感じている割合】

### 【考察】

基礎的・汎用的能力とより関連のある能力(自己育成能力・責任遂行能力・コミュニケーション能力・将来設計能力)について、また、系統性を見地から、小学校6年生と中学校1年生に視点を当て分析したところ、教師側から見ると「コミュニケーション能力」については小学校6年に比べ中学校1年では「身に付いていない」と感じている割合が高かった。「将来設計能力」については児童生徒ともに「身に付いていない」と感じている割合が高いことが分かった。小学校6年については、「自己育成能力」「責任遂行能力」の項目において、教師が「身に付いている」と感じている割合が高かった。しかし、「将来設計能力」の項目において「身に付いていない」と感じている割合が高い傾向にあることが分かった。【表3】

中学生の「自己育成能力」については、全学年75%は身に付いていると感じている。しかし、「コミュニケーション能力」については、小学校6年と比較すると低下している傾向が見られ、小学校と中学校との系統的な指導が必要であることが分かった。

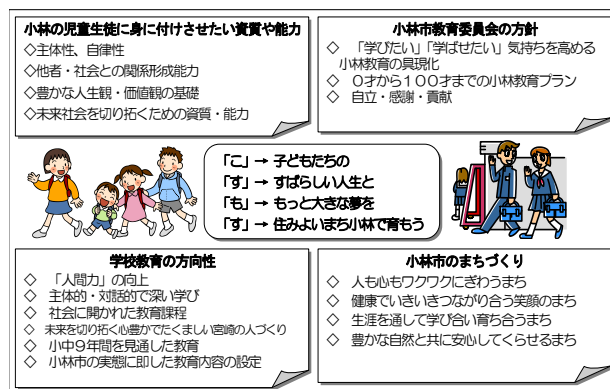
以上のことから、「こすもす科」の授業を通して、「コミュニケーション能力」と「将来設計能力」を高めるためにも、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業を実践するとともに、これからの社会において必要な資質・能力を身に付けさせることが急務であると考え。そこで指導の手立てとしては、「こすもす科」総則を見直し、「こすもす科」で身に付けさせたい8つの能力とキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力との関係性を整理し、授業改善につなげることとした。授業改善においては、単元計画および指導過程を見直し、主体的・対話的で深い学びが可能となるよう研究を進めることとした。



(2) 「こすもす科」総則の見直し

ア 「こすもす科」総則見直しの趣旨

小林市では、平成21年度より市内の全小中学校で、「こすもす科」の指導が始まった。これは、小林市教育推進プランの一つとして、児童生徒の勤労観や職業観の基礎を育むと共に、小林市民として自立させていくため、設定されたものである。「こすもす科」総則

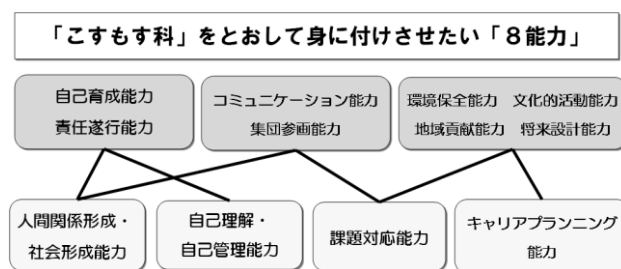


【図3：キャリア教育の視点を取り入れた「こすもす科」構成図】

は、平成23年度に改訂されているが、今回研究を推進するに当たり、昨今のより劇的な社会の変化に対応する児童生徒を育成する必要性や、県や市が抱える課題の解決のために、キャリア教育の視点で、再度「こすもす科」総則や目標、身に付けさせるべき能力の見直しを行う必要が出てきた。本年度は「こすもす科」構成図【図3】及び、以下に示す内容の見直しを行った。今回の見直しのよりどころとしたものは、新学習指導要領、第二次宮崎県教育振興基本計画（改定版）、第二次小林市総合計画（平成29年度～平成37年度）、小林市におけるキャリア教育全体構想、文部科学省のキャリア教育の手引き（改訂版）である。

イ 「こすもす科」における3領域及び8能力とキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力との関係

「こすもす科」では、児童生徒に身に付けさせるべき能力を3領域及び8能力として設定し、指導を行っている。今回の改訂では、「こすもす科」における3領域及び8能力とキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力をより密に関連付けて指導を行うことが大切であると考えた。そこで、「こすもす科」の3領域及び8能力とキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力との関連を見出すこととした。【図4】上記のように設定したが今後はキャリア教育研究班と連携しながら整合性をもたせ、検討を深めていきたい。



【図4：こすもす科の能力とキャリア教育の能力の関連】

【図4】上記のように設定したが今後はキャリア教育研究班と連携しながら整合性をもたせ、検討を深めていきたい。

(3) 「こすもす科」の授業改善

今年度は、「こすもす科」の単元の中から、キャリアプランニング能力の育成と、指導の系統性についてより関連のある単元を選定し、「主体的・対話的で深い学び」となるよう単元計画及び指導過程の見直しを行った。

ア 「こすもす科」の「社会領域における学習過程」の見直し

現行のこすもす科指導書「社会領域の学習過程」を見ると、単元全体の課題設定については含まれるものの、学習の計

	現行	新
ホップ 単元全体の課題 に気づく	● 単元全体にかかわる学習課題の設定 ● 様々な職業、上級学校の理解を深める学習内容の設定	● 単元全体にかかわる学習課題の設定 ● 様々な職業、上級学校の理解を深める学習の計画の設定
ステップ 話し合いや 体験活動を行う	● 課題解決に向けた取組 ● 将来の夢を考えるための外部人材、施設の活用	● 課題解決に向けた取組 ● 様々な職業、上級学校、 <b>自分の適性</b> についての理解を深める学習 ● 将来の夢を考えるための外部人材、施設の活用
ジャンプ 課題解決を行う	● 進路計画の作成、発表	● 進路計画の作成、発表
ランディング 取組みを評価し、 よきよきものを伝える	● 自分が今後頑張ることや生き方の整理	● 自分が今後頑張ることや生き方の整理

【表4：社会領域の学習過程新旧比較】

画を立てるなど、「見通しをもって」という部分についての記述がなされていない。

そこで、表のように、児童生徒の思考の流れにそって学習過程を改善した。【表4】

#### イ 単元計画および指導過程の見直し

「主体的・対話的で深い学び」が実現できるかという視点で、「こすもす科」中学校1年「自分と夢」の単元計画および指導過程の見直しを行った。生徒が全員、対等に対話できるためには、一人一人が考えをもってから対話に臨むことが大切だと考えた。そこで、生徒が主体となり、新たに単元全体の課題や目標を設定する時間を設定すると共に、「個人での思考→他者との交流→個人での振り返り」という流れを学習過程の基本とし、単元計画を見直した。その上で、生徒の主体的・対話的で深い学びを基盤とした学習指導過程の流れを右表のようにした。【表5】

導入	めあてをつかませる。
展開前段	個人で考えさせる。
展開後段	他者と交流させる。
終末	個人で振り返らせる。

【表5：学習指導過程の基本】

#### (4) 授業実践研究班の研究授業の実施

これまでの研究内容を検証するため、以下の仮説やポイントを設定して授業を行った。

単元の導入において、生徒に対して単元を貫く問いを投げかけ、その問いに対する考えや思いをもとに課題などの学習計画を生徒とともに立てるようにした。(授業のポイント①)

【研究授業（中学校）】：第1学年「こすもす科」単元名「自分と夢」

研究仮説	「こすもす科」の授業において、主体的・対話的で深い学びを通して、これからの社会で求められる力について考えさせることによって、自らの将来設計の課題に気づき、協働で解決する力が育つであろう。	
段階	学習内容	授業のポイント
導入	1 本時の学習について話し合い、課題をつかむ。	○ これからの社会変化についての資料を提示しながら課題を確認した。①
展開	2 課題に対して自分の考えを書く。	○ ワークシートに考えを書くことで、自分の考えをもつことができるようにした。②
	3 4人グループで意見を交流する。	○ 個人で考えたことをもとに他者と交流することで、自分の考えを確かめることができるようにした。②
	4 ゲストティーチャーの話を聞き、質問する。	○ ゲストティーチャーの考えを聞くことで、新たな視点の考えに触れることができ、自分の考えを再構築できるようにした。②
終末	5 再度、グループで課題について話し合う。	
	6 全体で話し合い、学習のまとめをする。	○ 多様な意見をもとに、本時学習を振り返ることで、自分の考えをさらに深めることができるようにした。②

#### 【成果】

##### ○ 授業のポイント①について

- ・ 単元の導入で課題をもつことができるような単元構成の見直しをしたことで主体的な学びにつながった。
- ・ 単元のねらいを明確にしたことで、授業者がゲストティーチャーに学習のねらいを的確に伝えることができ、ゲストティーチャーの活用が適切になされた。

##### ○ 授業のポイント②について

- ・ 学習過程を整理したことで、生徒一人ひとりが受け身の授業から脱却でき、主体的・対話的で深い学びを実現できた。



【写真2：ゲストティーチャーの活用】

【課題】

- 授業のポイント①について
  - ・ さらなる深い学びにつなげるようまとめの在り方を考える必要がある。
  - ・ 単元計画についてはより主体的な学びとなるようさらなる検討が必要である。
- 授業のポイント②について
  - ・ 単元の学習内容によってどの段階に時間をかけるのか違いがあることが見えてきた。今後の見直しに活かしていきたい。
  - ・ 児童生徒が話し合いで話しやすいよう流れを可視化するなどの手立てが必要である。
  - ・ 1単位時間の導入において課題意識をもたせる工夫が必要である。



【写真3：グループ学習】

IX 成果と課題

1 成果

- キャリア教育の全体計画や「こすもす科」と道徳や学級活動との関連を示した系統表を作成することで、各教科における指導内容の関連や、指導の系統性が明確になり、今後のキャリア教育推進の方向性が確認できた。
- 実態調査の分析や、「こすもす科」総則の見直しにより、「こすもす科」において、生徒一人ひとりが、主体的・対話的に授業に取り組み、自ら課題に気づき協働で解決する力を高める指導過程の在り方について検証することができた。
- 地域の人材活用に加え、小林市キャリア教育支援センターと連携を図ることで、地域内外の様々な職種や企業とのつながりが可能となり、授業での活用が広がった。

2 課題

- 「こすもす科」で身に付けさせたい8能力とキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力の関係性の整理の必要性があり、合わせて、キャリア教育の全体計画をどのように活用していくか、今後さらなる研究が必要である。
- 本年度の研究の成果を生かし、「主体的・対話的で深い学び」を基盤とした授業を構築するため、「こすもす科」の他の学年や単元における検証を重ね、学級活動や各教科に広げていく必要がある。
- これまで活用していた、こばやしスクールボランティアセンター（KSSVC）と小林市キャリア教育支援センターとの棲み分けをしつつ、地域人材活用の効果的な活用の在り方について、さらなる検証が必要である。

○ 研究同人

所 長 中屋 敷 史 生 (小林市教育委員会教育長)	<b>&lt;授業実践研究班&gt;</b>  研 究 員 岩 永 智 典 (小林市立三松中学校 教諭) 研 究 員 永 田 文 昭 (小林市立小林中学校 教諭) 研 究 員 井 戸 川 和 広 (小林市立小林小学校 教諭) 研 究 員 村 岡 佳 子 (小林市立永久津小学校 教諭) 研 究 員 勝 吉 千 穂 (小林市立須木小学校 教諭) 研 究 員 野 邊 純 敬 (小林市立栗須小学校 教諭) 研 究 員 新 坂 美 佳 子 (小林市立紙屋小学校 教諭) 研 究 員 関 谷 勉 (小林市立細野中学校 教諭) 研 究 員 岩 崎 香 恵 (小林市立野尻中学校 教諭)	
教 育 部 長 山 下 康 代 (小林市教育委員会教育部長)		
教 育 指 導 監 大 山 和 彦 (小林市教育委員会学校教育課教育指導監)		
事 務 職 員 古 沢 博 文 (小林市教育委員会学校教育課主幹)		
指 導 主 事 山 本 敏 (小林市教育委員会学校教育課指導主事)		
指 導 主 事 二 方 和 也 (小林市教育委員会学校教育課指導主事)		
主 任 研 究 員 柚 木 山 尚 未 (小林市立西小林中学校 教頭)		
運 営 委 員 中 山 裕 史 (小林市立永久津中学校 教諭)		
副 運 営 委 員 松 吉 啓 二 (小林市立西小林小学校 教諭)		
<b>&lt;キャリア教育推進班&gt;</b>		
研 究 員 足 立 文 枝 (小林市立西小林中学校 教諭)		
研 究 員 新 名 真 紀 (小林市立野尻小学校 教諭)		
研 究 員 日 吉 祐 太 (小林市立南小学校 教諭)		
研 究 員 橋 口 加 代 子 (小林市立細野小学校 教諭)		
研 究 員 高 岩 恵 子 (小林市立東方小学校 教諭)		
研 究 員 崎 田 瑠 美 (小林市立三松小学校 教諭)		
研 究 員 木 村 千 佳 子 (小林市立須木中学校 教諭)		
研 究 員 曾 山 正 人 (小林市立紙屋中学校 教諭)		
<b>&lt;コンサルタント&gt;</b>		
	平 川 康 子 (小林市立小林小学校 指導教諭)	
	黒 木 由 美 (小林市立三松小学校 指導教諭)	
	原 屋 敷 貴 子 (小林市立細野中学校 指導教諭)	